

医療安全だより

発行2018年10月

VoL.31

病院での患者さんのお薬の取り扱い

患者さんが入院される際には今まで自宅で飲んでいたお薬を病院に持ってきていただくようお願いしています。これを病院では「持参薬」と呼んでいます。

病院にご自宅で飲んでいたお薬を持ってきていただくことにより、患者さんは今まで飲みなれた薬を入院しても飲み続けることができます。また「持参薬」からは患者さんのいろいろな情報を得ることができます。入院に際しては、患者さん1人1人のお薬の内容や、内服している薬の量、身体状況や検査データとの関係性などについて確認しています。



また自宅でのお薬の内服、管理状況を知ることによって入院時の状態に合わせて看護師が配薬したり、複数の種類のお薬を1つの袋にまとめて入れる包装形態(1包化といいます)に変更したりして服用していただくようにしています。医師や薬剤師、看護師らがお薬に関する情報を確認することでお薬の内容や飲み方、包装の仕方まで患者さんに合わせた内容で提供することができるのです。



その一方で検査や治療によってはお薬の影響が強く関係し、休止していただく必要がある場合もあります。現在は同じ効果を持つお薬である後発薬品が何種類も出回っており、慎重にお薬の確認することが重要になってきます。そこで今回は、当院における薬剤師による安全活動の取り組みをご紹介します。

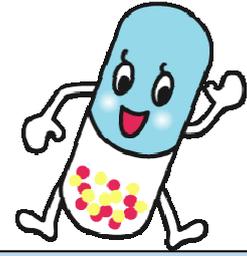


手術・観血的検査・治療を受けるときの流れ



医師

医師により手術や観血的検査・治療に関する説明があります。その中で血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬）を一定期間休止する必要がある場合があります（一部の糖尿病薬やピルでも休薬する場合があります）。検査の説明と同時に医師よりそのこともお伝えします。



看護師

手術や観血的検査・治療に関する予定や注意事項について説明（休止薬剤についても確認）します



薬剤師

薬剤師が患者さんの飲んでいるお薬についてお話を聞かせていただき確認します。ご自宅で飲んでいるサプリメントや他院からの薬についても情報を確認し休止するお薬についての説明、かかりつけ薬局への確認などお薬に関わることをさらに細かに対応します

薬剤師の役割について

当院では入退院支援室（入院患者さん用）とクリニック（外来患者さん用）の2か所で薬剤師が服用している薬の確認をしています。その際に薬の副作用やアレルギーの聞き取りも実施しています。その際、お薬手帳等の情報があれば他の病院でのお薬の処方も確認することができます。また休止となった薬の有無を確認します。これらの情報は電子カルテに入力され、電子カルテを通して患者さんに関わる医師・看護師・薬剤師など病院のスタッフが情報を共有することができます。

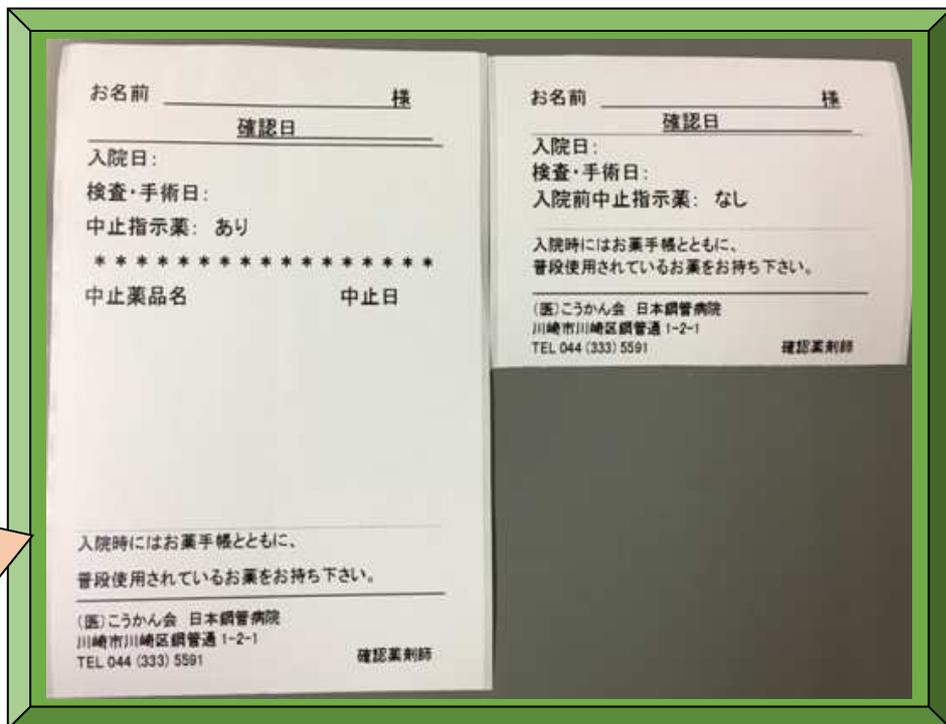
休薬指示がある場合でも当院の基準に照らし合わせて、間違いがないか再確認をする役目も担っています。疑問があれば主治医に直接確認します。また休止の期間やお薬の飲み方を患者さんと相談し、必要に応じて近隣の調剤薬局と連携し、一包化から休止するお薬を取り除いてもらったり、中止薬について説明の依頼をする事もあります。

薬剤師の確認事項

※薬剤師はお薬手帳やお持ちになったお薬、患者さんのお話を聞きながらこのような情報を確認しています。

- ・受診している診療科、処方薬歴
- ・服薬管理/服薬状況(お薬の飲み方や管理の仕方)
- ・お薬でのアレルギーや副作用の有無
- ・サプリメント/健康食品、市販薬を飲んでいるかどうか
- ・入院日、手術/検査日、服薬歴より中止指示薬の有無
- ・中止指示内容 等

<お薬手帳へ貼るシール>



※確認内容は
お薬手帳に記載し、
かかりつけ薬局で中止
指示の確認を行ってら
うようにしています。

かかりつけ薬局（院外薬局）との関わり

病院の薬剤師と調剤薬局（院外薬局）はお互い連携を取り合っています。年に4回はお互いに集まって連絡会を開催しています。連絡会以外でも随時意見交換を行い、安全で適切な薬物療法が行えるよう、お薬の中止指示と再開の確認を協働して行っています。

薬剤部としては安全かつ適切な治療が行えるような関わりを継続し、院内のみにとどまらないシームレスな薬物療法支援で患者さんの安全に関わっていきたいと考えています。



★検査や入院後に注意すべき患者さんの身体的リスクを事前に把握し、リスクを回避するために患者さんへお願いしたい事

そのために患者さんにもご協力いただきたいことがあります。

- ・受診時には必ずお薬手帳をお持ちください。
- ・過去に薬によるアレルギーや副作用の経験がある場合は必ず教えて下さい。

★かかりつけ薬局では薬に関する情報としてお薬手帳を作成してもらえます。

医療機関受診の際には必ずお持ちになって主治医等の医療関係者に見せてください。

これからも安心安全な医療の提供を目指して取り組んでいきたいと思っております。

